

## 2021 春闘勝利総決起集会



彩の傘を突き上げ、意思統一



「2021 春季生活闘争勝利福島県中央総決起集会」は、3月6日（土）福島市MAXふくしま北広場において、300名の組合員参加の下に開催した。コロナ感染に配慮し、フィジカル・ディスタンスを保った人数制限、傘を利用したデモ行進など工夫を凝らした集会となった。八巻連合福島事務局長、菅井福島地区連合議長が集会の議長を務めた。

主催者挨拶で今野泰連合福島会長は、「コロナ禍での連日の組合員のご奮闘に敬意を表する。今日は、「36の日」、東日本大震災・原発事故から10年目を控えた意味ある開催。2021春闘は、コロナ禍の情勢下で厳しい取り組みが強いられているが、経済情勢など好転の兆しも見始めている。要求書を提出した一部組合では、規模間や昨年を上回るなど、分配構造にこだわる強い姿勢が示されている。決意を含め、3点申しあげる。1つは、「賃金改善と雇用維持・創出で経済活性化を図る春闘とする。」賃上げによる格差解消と同時に、セーフティネットの就労支援、スキルアップをパッケージに取り組む。また、ウィズコロナ・アフターコロナにむけ、政府・自治体に対して要請書を提出し、追い込みを図る。2つめは「労働組合・連合の取り組み成果を、社会全体に波及させる春闘とする。」産業状況の好・不調の部分も踏まえ、全体の分配構造にこだわる。働く者の主張による権利保護などを始め、集团的労使関係の必要性を示す。労働組合の社会への影響を高めることを共通理解のもと取り組む。3つめは、連合福島、県労福協はこの10年の支援に対し、また、コロナ禍で奮闘する仲間、皆さん自身のご家族・ご友人に「どうもありがとう」を伝える「D o ・ M o e」プロジェクトを展開し、社会に発信する。皆さんのご理解とご協力をお願いします。』と決意を述べた。



主催者挨拶をする  
今野泰連合福島会長



連帯挨拶をする  
高野政調会長



決意を述べる飯塚組織部長（左）  
と飛田支部長（右）

引き続き、連帯の挨拶に立った高野県民連合・立憲民主党県連政調会長は、現政権のコロナ対策の無責任な態度や地方を蔑ろにした政策で格差は拡大した。1日も早い政権交代が必要だと訴えた。

構成組織の決意表明は、自治労福島県本部の飯塚組織部長からソーシャルワーカーの現状を例に、公務公共サービスの質向上と人員確保の必要性が訴えられた。また、UAゼンセン福島県支部飛田支部長から、部門ごとの具体的要求額が示され、合わせて現状打開にむけての強い決意が示された。

集会アピール採択後のガンバロー三唱やデモ行進では、組合員が色とりどりの傘を掲げ、春闘への決意を力強くアピールした。



逆風に負けず前へ



カラフルな傘が注目を浴びる



団結ガンバローは傘を突き上げ